

和の光

宝塚市立西谷中学校



トヨタ自動車株式会社の新入社員に向けたメッセージ

イチロー（鈴木一朗）

トヨタが「woven city」という新しい街を作る。先日そんなニュースを見て、僕は社長がこの会社のバッティングフォームを変えようと思われていると思いました。

現役時代、僕は毎年のようにバッティングフォームを変えてきました。たとえ首位打者をとったり誰よりもヒットを打ったりしたとしても、次の年には変えています。**更に前進するためには、常に新しいチャレンジが必要だと信じている**からです。その結果、前の年よりも成績が下がったり、上手いかなかったりしたこともたくさんありました。振り返ってみると、そのほうが多いのかもしれませんが。でも僕はこう思うのです。

成長とはまっすぐに目的地へ到達することではないんじゃないか、前進と後退を繰り返して、少しだけ前に進む、つまり後退も成長に向けた、大切なステップなんじゃないかと。

「変える」ことはとても勇気のいる事です。この会社が今、モビリティカンパニーに変わろうとしている。そのために、そこで働く一人ひとりがバッティングフォームを変えていく。皆さん、とてもチャレンジングな時期に入社されたな、と僕は感じています。自身を成長させる、大きなチャンスだと信じて、トヨタという大きなフィールドに飛び込んでほしいと願います。

昨年末、僕は学生野球の指導に必要な研修を受けてきました。そこで感じたことがあります。それは、指導する側よりも、指導される側のほうが、力が強くなっているということです。「これも時代だから」という一言で片づけていいのでしょうか？僕は大変憂慮しています。**上司や先輩から教わることには、大切なことがたくさんあります。それを謙虚な気持ちで受け止めてほしい。厳しく指導することが難しい時代に、じゃあ誰が教育をするのか？**

それは、自分自身です。先が見通せない時代で、だれかが正解をもっているわけではない。だからこそ、自分で自分を教育する。それが必要不可欠になっていると感じています。

僕からもう一つ。今の時代、スマホを使えば様々な情報をすぐに頭に入れられる。世界がなんとなく小さくなった。そんな気がしている人も少なくないと思います。

僕は27歳の時に大リーグに挑戦しました。**外に出れば、楽しさもあるけど、傷つくことだってある。勉強になることもたくさんある。調べれば知識として分かった気持ちになっても、実際に行ってみて初めて知ることがたくさんありました。**その中で、自分が育った日本は素晴らしい国なんだ、その誇りが断然強くなりました。

トヨタには「障子を開けて見ろ。世界は広いぞ」そんな言葉があると伺いました。知識として持っておくだけでなく、外の世界に出て、体験して感じる。

皆さんも、外の世界を見ることでトヨタという会社や自分自身に対して新しい発見があるのではないかと思います。そして、今まで当たり前のものが、決して当たり前ではないことに気が付く。

きっと、皆さんも価値観が変わるような出来事を体感されるのではないのでしょうか。それが、28年のプロ野球生活を終えた今、僕が感じていることです。

■イチロー選手のメッセージから学ぶこと

左記のメッセージは先日、日本人初の米国野球殿堂入りを果たしたイチローさんが、2020年のトヨタ自動車株式会社の新入社員に送ったメッセージです。プロの野球界で活躍したイチローさんの言葉には、教育の世界にも通じるものがあると思います。みなさんは、読んでみてどのように感じましたか？

■打率を考える

野球には打率というものがあります。打率とは、ボールを打って1塁に向かって走った時、セーフとなる確率を表しています。打率10割という場合は、10本中10本がヒット。5割なら、10本中5本がヒットということです。それでは、ここで問題です。

イチロー選手の打率は次のうちどれに該当するでしょうか？

①10割、②7割、③5割、④3割

■打率から考えてもらいたいこと

米国野球殿堂入りしたイチロー選手の打率は3割です。10回の打席のうち3回しかヒットを打っていないことになります。だからといってイチロー選手は諦めたりしたのでしょうか？全部の打席でヒットを打つつもりで臨みます。時には、**思うように打てない時もあるでしょう。しかし、その中で打てる確立を少しでも高めようと努力をするのです。**

さて、ここでみなさんの学校生活に目を向けてみましょう。授業や行事などで「間違えるのが嫌だから…」「失敗するのが怖いから…」のようなことはありませんか？

■西谷中のみなさんに期待すること

昨年の4月から、私はみなさんに「自分の殻を破ろう」と呼びかけてきました。生徒会役員や書道パフォーマンスの実行委員に立候補してみたり、普段の授業や行事において自分の意見を述べてみたりと、自分の殻を破って一步を踏み出す姿を目にしてとても嬉しく思います。

イチロー選手がいうように、更に前進するためには、常に新しいチャレンジが必要です。そこには間違いや失敗もあるのです。**間違いや失敗から学ぶことはたくさんあります。これからもみなさんには、勇気を持って自分の殻を破り、様々なことに挑戦し続けて欲しいと願っています。**

校長 筒井 啓介

■仲間と共に学ぶ楽しさ～保健体育「柔道」～

今回は3年生の柔道を見学しました。1・2年時に習ったことが活かされており、機敏な動作が見られます。さすが3年生だと感心しました。授業の内容は、準備運動に続いて受け身の練習や、上四方固や横四方固などの固技の練習に取り組んでいました。



3年生 柔道授業の様子



身体の小さい者が大きい者を投げ飛ばす。「柔よく剛を制す」という思想が示すこの動作こそが柔道の醍醐味です。創始者の嘉納治五郎が柔術を学び、それを独自に改良し、武道としての精神的な道を確立させ、柔道が誕生しました。

その理念は「精力善用」と「自他共栄」というもので、社会や周囲の人たちに対して自らの心身がどうあるべきかを示したものです。

- ・「精力善用」⇒自分が持つ心身の力を最大限に使って、社会に対して善い方向に用いること。
- ・「自他共栄」⇒相手に対し、敬い、感謝をすることで信頼し合い、助け合う心を育み自分だけでなく他人と共に栄えある世の中にしようとする事。

3年生にとっては、3年間の学びの集大成となりますが、「技」だけではなく「柔道の精神」についてもしっかりと学んで身につけて欲しいと願います。(1月27日)

3年生 柔道授業の様子